

## 新生美術館基本計画検討委員会（第1回） 主な意見

- ・日時：平成24年6月17日（日） 15：00～17：00
- ・場所：コラボしが21（大津市）
- ・出席委員：牛尾委員長、石丸委員、奥委員、河島委員、北川委員、佐野委員、瀬古委員、廣瀬委員、布野委員、保坂委員、南委員、三原委員
- ・欠席委員：長谷川委員、山本委員

## ■滋賀の美の特性

- 新たに美術館に加わる仏教美術もアール・ブリュットも、滋賀県には高いポテンシャルがある。逆に近代美術館のこれまでの資産である現代美術については、今はポテンシャルがあるとは言い切れない。現代美術はこれから生み出すもの、新たに価値を見出すものであり、新しい世代がいかにものづくりに取り組めるか、未来への準備をこれから進めていく分野ではないか。（南委員）
- 仏教美術について、滋賀には本来、国立博物館があってもいいくらいの作品がある。（石丸委員）

## ■新生美術館の基本的な考え方

- 新生美術館の目指しているものはかなり画期的。仏教美術とアール・ブリュットと合わせて目指すということは、価値観の再編成を人に求めるものでもあり、新しい美術館のモデルをつくらうとしているのだろうと思う。（保坂委員）
- 美術館を通じて、いかに心の充実を促進して、リピーターやサポーターを増やしていくか、住み心地の良さという県民の充足感を生み出していくかを、目指していくことになる。（佐野委員）
- 近代美術館の資源、仏教美術、アール・ブリュットを単に合体するのではなく、それらのつながり、バランス、トータルでのストーリー性を考えるべき。（瀬古委員）
- 3つの分野はつながらないのではという議論もあるだろうが、滋賀県に実際に来てみると、それぞれの作品が目の前に集まっている。ならばそれを守ることが美術館の使命であるという考え方も成り立つ。（保坂委員）
- これだけの美を対象にするのは大変なことで、コンセプトで領域を崩すことも大切だが、並列させるだけでも、滋賀県としての特殊性を十分に示せることになるのでは。（奥委員）
- 「美の滋賀」の提言にある「生き方や暮らしそのものの美」について、美術館の取り組みとしてどう反映されるのかわかりにくい。コンセプトを構造化して整理する必要がある。
- 早期に新しい名称を決めていくこともイメージの共有のためには重要。（布野委員）
- 「美」という言葉について、どういうニュアンスで使っているのか、何を伝えたいかをはっきりさせた方がいい。（河島委員）

## ■新生美術館の事業展開の方向性

- これまで芸術やアートが暮らしと切り離された遠い存在となっている部分があった。美術館が「コミュニティの形成」や、「子どもたちの育ちの中に芸術を取り入れる」といった役割を担うことが大切であり、豊かな心や根本的な人のあり方をつくっていくような位置づけになることを期待する。（北川委員）

- 滋賀県は文化財に極めて恵まれており、これまで琵琶湖文化館が絶えず中心となってケアしてきた。新生美術館の役割としては、培ってきたものを大切に、人的な蓄積や管理のノウハウ、調査機能が保持されることを願う。(奥委員)
- 事業活動の展開として、来館者との接点でどう考えるかが先に出てきているのは好ましい。(河島委員)
- 仏教美術やアール・ブリュットについて言葉ではわかるが、どういうものが見せてもらえるのか、具体的に伝えていくことが大切。美術館は、専門家の自己満足になりかねない。おもてなしや、サービス精神を持った美術館にするべき。(廣瀬委員)
- 滋賀からものづくりをする若い才能が流出している。京都では滋賀出身で活躍している人も多い。そういった人を含め、滋賀で創作活動ができる現場をつくっていく必要がある。(南委員)
- 事業活動に国際的な展開を盛り込むなど、もっとアグレッシブな姿勢を打ち出してもいいのではないかと。滋賀県に多くの資源があることが、県民の方にも県外の方にもあまり知られていないと思う。(河島委員)
- 託児のサービスに対する母親のニーズとしては大きいところであり、ぜひ進めてほしい。(廣瀬委員)
- 近代美術館で開催している県美術展覧会は県内の人が作品を出品して、滋賀県の人が見に来る、まさに県民参加型のもの。それが現在は会場の関係で前半・後半の2回に分かれて開催している。開催時期も課題。このあり方もしっかり検討していただきたい。(三原委員)

#### ■体制・運営・施設

- 県内では、例えば子育てでも様々な活動をされている人がいるし、多数の作家もいる。美術館にそういった人々を巻き込んでいく形を考えていくべき。(北川委員)
- 理念の提案にある、「自然とつなげる」ということは、多くの人が考える美術館の概念を超えるものなので、本当に取り組むならそのためのマンパワー、体制が必要だと思う。人数もそうだが、創造的な職員の存在も重要では。(保坂委員)
- レストランやショップの充実が、利用者の視点では楽しみな、大きな要素になる。ミュージアムショップの充実を望む。(北川委員)